

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年 3月 31日
2次評価日（課長等）	2年 5月 31日

1 事業名	人間ドック助成事業	コード	3101
-------	-----------	-----	------

2 担当部課	部等	市民環境部	課等	医療保険課	作成者	水野 康夫
--------	----	-------	----	-------	-----	-------

3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち		
		政 策	保健・医療の推進	施 策	健康づくりの推進
		予算科目	国保特会	業務委託	一部委託
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	国民健康保険法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	国民健康保険被保険者の疾病の早期発見、早期治療により、健康保持を図る。		
目的	対象者	35歳以上の岡谷市国民健康保険の被保険者	
	意 図	疾病の早期発見、早期治療により、健康保持を図る。	

5 事業の実施内容	*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
国民健康保険の保健事業の一環として被保険者（35歳から74歳）を対象に人間ドックの助成事業を実施した。406件（日帰りコース370件、1泊2日コース36件）の申請があり6,630,000円の助成を行った。 <助成の内訳> ・指定医療機関（市内、4医療機関）分…指定医療機関へ委託料として支払いを行った。 日帰りコース : 15,000円×215件=3,225,000円 1泊2日コース : 30,000円×12件=360,000円 ・指定医療機関以外分…被保険者個人へ補助金として支払いを行った。 日帰りコース : 15,000円×155件=2,325,000円 1泊2日コース : 30,000円×24件=720,000円			
前年度の課題への対応	チラシ等による周知を行った。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	人間ドック等受診件数			単位	件
実績値	376	378	406		
*指標の説明	ドック受診実績数				
② 成果指標（指標名）	人間ドック等受診件数			単位	件
目標値	410	410	410	410	
実績値	376	378	406		
達成度	91.7%	92.2%	99.0%		
*指標の説明	ドック受診実績数/当初見込み受診者数				
*目標値の設定方法の説明	当初見込み人数に対するドック受診件数				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	6,300,000	6,315,000	6,630,000	7,650,000
経常経費	6,300,000	6,315,000	6,630,000	7,650,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明	—			
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
正規職員の人数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20
③ 合計コスト(①+②)	7,900,000	7,915,000	8,230,000	9,250,000
前年度比		100.2%	104.0%	112.4%
財源	7,900,000	7,915,000	8,230,000	9,250,000
一般財源				
内訳	0	0	0	0
特定財源				
* 特定財源の説明	—			
④ 活動一単位あたりコスト	21,011	20,939	20,271	
前年度比		99.7%	96.8%	
⑤ コストに関する補足説明	—			

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
岡谷市人間ドック助成事業	件数	168	166	179	180
	金額	3,030,000	2,955,000	3,045,000	3,450,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	3,030,000	2,955,000	3,045,000	3,450,000
	割合	48.10%	46.79%	45.93%	45.10%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 107.4%	1
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 99.0%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 人間ドック助成事業は、国民健康保険被保険者の健康の保持・増進を目的として行う保健事業の一環として実施しており、人間ドックの利用を推進することにより、被保険者の疾病の早期発見、早期治療を促し、結果として医療費の削減にも結び付くとされていることから、他の保健事業とともにさらなる利用者の増加を図る必要がある。	
	改善方法	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 令和元年度に引き続き、健康ポイント事業の対象とし、ドック受診者の増加を図る。(特定健診の受診率向上も図る。) チラシ・広報等による周知を図る。
改善開始時期		令和2年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	--	---